
投げやりな恋の顛末

栗駒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

投げやりな恋の顛末

【Nコード】

N4702Y

【作者名】

栗駒

【あらすじ】

女タラシの幼なじみに長年恋をする百合子。

一大決心して告白するも撃沈し、その直後に自分の友人にまで手を出していたことを知る。

どん底まで落ち込み、投げやりになった彼女は……！？

ある意味はじまり（前書き）

軽い性描写があります。

苦手な方はご注意ください。

ある意味はじまり

——もう、疲れてしまった。

「本当にいいの？」

何度目かもわからない彼の問いかけに、コクンと小さく頷いた。

「いいんです。だから……して下さい」

「……わかった」

その一言を合図に腰掛けていたベッドに優しく身を倒され、洋服の釦が上から少しずつ外されていく。

それを私は人形のように身動もしないまま虚ろな目で眺め、覆い被さる男の熱い吐息を耳元で感じながら、頭では全く別の男の姿を思い浮かべていた。

整った甘い顔立ちに一度も染めたことのない柔らかな茶髪。

いつも沢山の女の子に囲まれていて、来る者は拒まず去る者は追わない飄々とした男。

(……ごめん、ユリ。俺は、お前だけは抱けない)

最低だ。

思い出したくもないアイツの言葉が、まるで呪いのように私を支配する。

だから私はこの優しい人を利用したのだ。

どうにもならない感情を持て余し、吐き出すようにして私を抱く、優しくて愚かで、同じく報われない想いに苦しんでいたこの人を。

――ねえ。篤史？

私はあるが思っているような清廉潔白な慈悲深い聖女のような人間なんかじゃない。

誰かを憎んだりもするし、あんたの周りにいる女に醜く嫉妬したりもする、生身の女だってことをどうして理解してくれないの。

全てが終わった後、私の上に崩れ落ちた男の体の重みを感じ、互いに荒い呼吸を繰り返しながら、もう自分が決して後戻りできないことを痛いほど実感する。

霞ゆく視界の中で意識が遠退くのを感じながら、気がつけば一滴の涙が頬を伝っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4702y/>

投げやりな恋の顛末

2011年11月13日15時17分発行